

診 療

外陰部に多発する Epidermal Cysts の 1 例

湘南鎌倉病院産婦人科

*茅ヶ崎徳洲会病院産婦人科

井上 裕美 村主 千明* 福島 安義*

Multiple Epidermal Cysts of the Labia Majora

Hiroimi INOUE, Chiaki MURANUSHI* and Yasuyoshi FUKUSHIMA*

Department of Obstetrics and Gynecology, Shohnan Kamakura Medical Center, Kanagawa

*Department of Obstetrics and Gynecology, Chigasaki Tokushukai Medical Center, Kanagawa

Key words: Vulva • Multiple epidermal cysts

緒 言

Epidermal cyst (上皮嚢腫) は、直径0.2~5cmの円形、弾性硬の隆起病変で、皮内または皮下でゆつくりと発育する。それらは顔面、頸部、胸背部に好発、また男性の陰嚢にも多発するものもある(多発性陰嚢粉瘤症)。しかし日常の臨床で、発生学的に男性の陰嚢に相当する女性の大陰唇に多発する Epidermal cysts に遭遇することは少ない。今回われわれは大陰唇に多発した Epidermal cysts の症例を経験したのでここに報告し、また主としてその Terminology および classification, さらにその鑑別診断についても文献的検討を行った。

症 例

患者: 29歳, 未婚, 未婚妊の小学校教師。

月経歴: 初経13歳, 周期28日。

既往歴および家族歴: 特記すべきことなし。

主訴: 外陰部に多発する小さな無痛性の腫瘍。

現病歴: 患者は来院3カ月前に、外陰部に多発する小さな腫瘍に気づいていたが、そのまま放置していた。最近になつてその数が増加しているのではないかと心配になり来院となつた。外陰部の不快感はあるが、疼痛、掻痒感はない。その当時、学校で“みずいぼ”(Molluscum contagiosum, 伝染性軟属腫)が流行しており、初診時 Molluscum contagiosum を疑い嚢腫の生検を施行した。

外陰部所見: 両側の大陰唇にやや灰白色の多数(大小50個以上)の丘疹(結節様腫瘍)を認めた(写真1)。その中央に小陥凹部があり、腫瘍の大きさは、直径2mm から6mm であつた。これらの腫瘍は、弾性硬および可動性を示したが、発赤・腫脹・圧痛は認められなかつた。強く圧迫すると、中心より黄白色粥状物質が排出された。

病理組織学検査: 腫瘍は、その嚢腫壁が角層、顆粒層、有棘層、基底層からなる正常表皮で構成される上皮性嚢腫で、しかも、皮脂腺、毛嚢、汗



写真 1

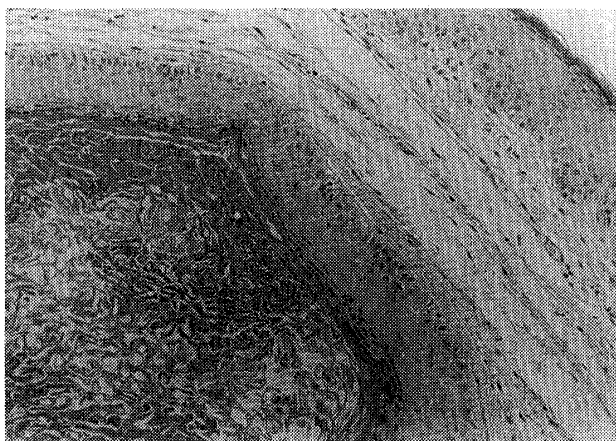


写真2

腺等の皮膚付属器は含まれていなかった。嚢腫内に層状の角質塊を認め、Epidermal cyst と診断された(写真2)。なお、Molluscum body は認められなかった。

治療：1% Xylocain スプレー噴霧後各嚢腫を切開、内容摘除、また大きいものに対しては、局所麻酔下にて嚢腫摘出を行つた。3年経過した現在再発はない。

考 察

Epidermal cyst は母斑および良性腫瘤に分類される一つの疾患であるが、その terminology および classification については必ずしも一致していない。本邦では、上野⁴⁾は良性被覆表皮性腫瘍の一つに粉瘤 (Atheroma) = 上皮嚢腫 (Epidermal cyst) を分類し、また池田ら¹⁾は粉瘤 (Atheroma) を類上皮嚢腫 (Epidermoid cyst) = 上皮嚢腫 (Epidermal cyst) と外毛根鞘嚢腫 (Trichilemmal cyst) に分類している(表1)。なお、粉瘤を真性と仮性とに分類する場合もあるが、この場合前者は Epidermal cyst であり後者は毛嚢の貯溜嚢腫を意味する²⁾。また外毛根鞘嚢腫は毛髪嚢腫 (Pilar cyst) と同義語として使用されている。一方 Pincus¹²⁾は Tumor with epidermal differentiation の中に Epidermal cyst = Epidermoid cyst を分類し、また Hackney⁶⁾は Epithelial cysts of the skin の一つに Epidermal cyst = Epidermoid cyst を分類している(表2)。上記に示したように、最近の皮膚科学の Textbook においても Epidermal cyst の定義および分類は混乱

表1 Classification of epidermal cyst

(上野賢一：小皮膚科書，271，金芳堂，1984)

皮膚腫瘍—上皮性腫瘍—良性被覆表皮性腫瘍—

1. 老人性疣贅 (verruca senilis)
2. 稗粒腫 (miliun)
3. 粉瘤 (atheroma) [上皮嚢腫 epidermal cyst]
4. 外傷性上皮嚢腫 (traumatic epithelial cyst)
5. 澄明細胞性棘細胞腫 (clear cell acanthoma)

表2 Classification of epidermal cyst

(Fitzpatrick T.B. et al.: Dermatology in general medicine, 788. McGraw-Hill, 1987)

Section 13. Epidermal and Appendageal Tumor

Chapter 78. Tumors of skin appendages.

1. Tumor with eccrine differentiation
2. Tumor with apocrine differentiation
3. Tumor with hair differentiation
4. Tumor with sebaceous differentiation
5. Tumor with epidermal differentiation
 - a) Epidermal cyst b) Milium
 - c) Dermoid cyst

しており、また複雑である。同義語としては上記に述べた Epidermoid cyst, Atheroma, および Epithelial cyst 以外に Epidermal inclusion cyst, および Keratin cyst がある。

病因については、遺残表皮の真皮内迷入によるものとの説もあるが明らかではない³⁾。外傷による Epidermal cyst の報告も多く、とくに Onuigbo¹¹⁾は Nigeria のイボ族の外陰部に高頻度に Epidermal cyst が見られることとイボ族の女子の割礼との関係を指摘し、さらに Ofodile et al.¹⁰⁾は、Nigeria での5年間の割礼後の陰核の Epidermal cyst 19例を検討し、そのうち14例(74%)が1歳から10歳までの女子であつたと報告している。

一般に、Epidermal cyst は若年および中年の成人に多く見られるが、子供ではまれである¹³⁾。男女差は明らかではない。

Epidermal cyst は slow-growing, 隆起性, 円形, 弾性硬の皮内又は皮下嚢腫で、大きさは0.2~5 cm とさまざまである。好発部位は頭部、顔面であるが、外陰部、体幹および四肢にも生じる。単発

表 3 Vulval neoplasm (Benign tumors)

neoplasm	characteristics
Epidermal cysts	solitary or multiple
Bartholin's gland cysts	in the posterior portion of the labia majora
Fibroepithelial polyps	the most common benign tumor
Seborrheic keratosis (Verruca senilis)	in the mons pubis
Mesonephric or paramesonephric cyst	around the clitoris
Urethral cyst	near Skene's gland, rarely
Dermoid cyst	along the median perineal raphe
Angiokeratoma	solitary or multiple
Lymphangioma	soft circumscribed mass
Endometriosis	bluish firm nodule
Appendageal tumor	
1) hidradenoma papilliferum	solitary flesh-colored nodule
2) syringomas	skin-colored or yellowish papules
Ectopic tissue (Ectopic breast)	variation in size with menstruation & pregnancy

性又は多発性であるが、10個を越えることはないと言われる³⁾。時に中央に面疱様黒点が存在する。囊腫内容は semisolid である。自覚症状はほとんどないが、二次感染により発赤、腫脹、疼痛等の症状を呈する。悪性化はまれではあるが報告されている⁹⁾。

外陰部の Epidermal cyst の発生頻度に関しては、いまだ明らかではないが、まれではない¹²⁾。しかし Multiple epidermal cysts の発生頻度に関してはいずれの Textbook においても明らかな記載はなく不明である。当院における頻度を調べてみると、過去8年間の産婦人科の外陰部疾患の全病理検体44例中10例(22.7%)が外陰部の Epidermal cyst で、このうち1例が Multiple epidermal cysts であつた。

Epidermal cyst を伴う疾患で注意を要するものに Gardner's syndrome がある。これは大腸ポリープ、骨腫、線維腫、および Epidermal cyst 等が合併する症候群で、常染色体性優性遺伝を呈することと、大腸ポリープの癌化傾向が問題となる⁵⁾。これとは別に、大陰唇の前交連の Epidermal cyst と恥骨の離開、二分裂の陰核、および6腰椎との合併する症例の報告もある¹⁴⁾。

病理組織学的には、囊腫壁は正常表皮と同じ構造で、中に層状の角質塊を見る。

鑑別診断には、他の上皮細胞系腫瘍(表3)と

の鑑別が必要である。とくに毛髪囊腫(Pilar cyst)との鑑別には注意を要するが、毛髪囊腫には顆粒層が存在しないことで鑑別できる⁶⁾。また Molluscum contagiosum との鑑別には、その表皮細胞に、細胞質内封入体である Molluscum body を証明することで可能である。まれに、Epidermal cyst に Molluscum contagiosum を合併した報告もあり、注意を要する⁷⁾。

治療は、囊腫の全摘出が必要で囊腫壁を残すと再発すると言われている。

結 語

今回われわれは、女性の外陰部に多発(50個以上)した Epidermal cysts のまれな症例を経験した。外陰部に集落を形成するように多発する Epidermal cysts は、その大きさおよび個疹の中央に小陥凹部を有する等 Molluscum contagiosum と臨床的に類似する点があり、鑑別を要することが示唆された。またその両者の治療方法は切除および摘出という点で類似しているが、Molluscum contagiosum が性交およびプール内伝染が報告⁸⁾されていることを考えると、誤った診断の患者に与える影響は大きいと思われる。

発生学的に、男性の陰囊に相当する女性の大陰唇に多発する Epidermal cysts はまれで、“多発性陰唇粉瘤症”と言った疾患名もない。しかしその病因を考える上で興味ある症例であつたと思われる。

る。

本論文要旨は第73回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会において発表した。稿を終えるに臨み、本院皮膚科の高橋仁子先生、茅ヶ崎市立病院皮膚科の樋口光弘先生、および北里大学皮膚科の西山茂夫教授に心から謝意を表します。

文 献

1. 池田重雄, 水谷ひろみ: 標準皮膚科学. 第2版(旗野 倫 監修), 255, 医学書院, 東京, 1987.
2. 川村太郎, 池田重雄: 母斑および母斑症. 臨床皮膚科全書, 第4巻(北村包彦ら編), 71, 金原出版, 東京, 1973.
3. 森岡貞雄, 山口全一, 馬場俊一: 皮膚嚢腫. 現代皮膚科学大系, 第9巻(久木田淳ら編), 119, 中山書店, 東京, 1980.
4. 上野賢一: 小皮膚科書. 271, 金芳堂, 京都, 1984.
5. Gardner, E.J.: Follow-up study of a family group exhibiting dominant inheritance for a syndrome including intestinal polyps, osteomas, fibromas and epidermal cysts. Am. J. Hum. Genet., 14: 376, 1962.
6. Hackney, V.C.: Epithelial cysts of the skin. In Textbook of Dermal Pathology (eds. J.H. Graham and W.C. Johnson), 497. Harpar & Row Publisher, New York, 1972.
7. Hodge, S.J., Fliegelman, M.T., Schrodtt, G.R. and Owen, L.G.: Molluscum contagiosum

occurring in epidermal inclusion cysts. Arch. Dermatol., 108: 257, 1973.

8. Lowy, D.R.: Ricketial and viral disease with cutaneous involvement. In Textbook of Dermatology in General Medicine, 3rd ed. (eds. T.B. Fitzpatrick et al.), 2351. McGraw-Hill Book Co., New York, 1987.
9. Miller, J.M.: Squamous cell carcinoma arising in an epidermal cyst. Arch. Dermatol., 117: 683, 1981.
10. Ofodile, F.A. and Oluwasanmi, J.O.: Post-circumcision epidermoid inclusion cysts of the clitoris. Plast. Reconstr. Surg., 63: 485, 1979.
11. Onuigbo, W.I.B.: Vulval epidermal cysts in the Igbos of Nigeria. Arch. Dermatol., 112: 1405, 1976.
12. Pincus, S.H.: Diseases of female genitalia. In Textbook of Dermatology in General Medicine, 3rd ed. (eds. T.B. Fitzpatrick et al.), 1258. McGraw-Hill Book Co., New York, 1987.
13. Rook, A. and Willkinson, D.S.: Tumors of the skin. In Textbook of Dermatology, 1938. Black Well Scientific Publisher, London, 1968.
14. Zivkovic, S.M.: Epidermoid cyst of anterior commissure of labia majora and separated pubic bones. Urology, 17: 467, 1981.

(No. 6554 平1・2・7 受付)